

wish ●●●ウィッシュ

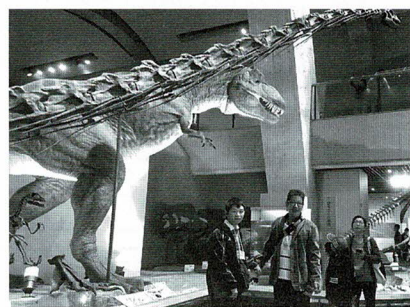
前橋市手をつなぐ育成会報

ホームページアドレス <http://m-teotunagu.moo.jp/>メールアドレス info@m-teotunagu.moo.jp

携帯TEL 080-7744-4300

発行所
前橋市手をつなぐ育成会
前橋市東上野町459-1
前橋市立前橋特別支援学校内
TEL027-260-3001
発行人 原澤 正光
印刷所 マルエー印刷
TEL 027-232-1684

「ゆうあいハイキング」開催



11月17日（日）、富岡・甘楽方面にて「ゆうあいハイキング」を実施、県立自然史博物館～楽山園～こんにやくパークを順に巡るコースでしたが、穏やかな秋晴れの下、ゆっくりとしたプログラムの中、ご参加いただいた皆さんのはじける笑顔を楽しめることができた一日でした。

当初からの予想通り、自然史博物館で出迎えてくれた恐竜たちの迫力に圧倒されながらも、しばし足を留めて魅入っていただけている様子に、企画サイドとして、まずはホッとできる光景でした。

しかしそこからの様子は、こちらで予想していたものとは別物で、皆さん興味を傾けている対象は違うものの、一見して地味な展示物などにも、かなり集中して引き込まれているグループもあり、あちこちで足を止めながらワイワイと楽しげに語り合う姿が多く見られて、予想では持て余すのでは、と少し心配していた90分間の滞在時間はあっという間に過ぎ、最後は足早に集合場所に戻ってこられるグループも見られる様な状況でした。

次に訪れた楽山園も、織田家の庭園史跡ということで、お世辞にも派手な造作物があるわけでも無いので、皆さんあっさりとスルーして戻ってきってしまうかと思いきや、小高い丘の上に建つ小さな茶屋で、のんびり座り込んで庭園や借景の山並みを眺めていたり、池の周辺で鯉や亀の動きを指さしながら追いかけていたり、休憩所でお抹茶を頂いたり、と園内のあちこちでゆっくりとしている姿に、心が和みました。



最後に訪れたこんにやくパークは余りにも多い人並みに、多少気圧されながらも、なんとかバイキングコーナーに入ることが出来、驚くほど種類豊富なこんにやくメニューを満喫し、おみやげ購入や足湯などもゆっくり楽しむことが出来て、笑顔たっぷりの中で帰路につきました。

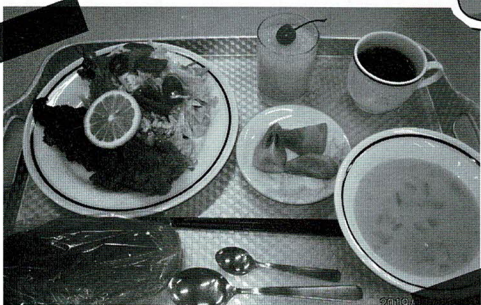
比較的近い範囲の中でのプログラムということもあり、時間的にはそれぞれの場所で、ゆっくりと出来る時間も多く、のんびりムードで楽しめた様に思います。

また今回は学生ボランティアさんも多く、若くて明るい雰囲気の方が、そばに寄り添っていただけたお陰で、本当に皆さんの笑顔がいつも以上にあふれていたように思います。

年に1回しか企画出来ませんが、それでも継続する中で参加する皆さんの成長を感じたり、関係性が強くなっていることを実感します。また、少しずつですが新しい参加者も増えてきていますので、今後も継続して笑顔の輪を拡げていければと思います。

今回の参加者は障害のあるご本人15名、ご家族15名、支援者13名、合計43名でした。 (前川)

料理教室



令和1年11月23日、前橋市総合福祉会館にて親子料理教室が行なわれました。

今回は、親子10組、ボランティア6人が参加しました。

この日のメニューは、チキンカツレツ、コールスローサラダ、パインゼリーで、Kさんのご指導のもと、スムーズに作る事ができました。子ども達は、できることをやって、みなさんと協力して、楽しく、ワイワイ、ドキドキ、ワクワクしながら作りました。

チキンカツレツは、大きく揚げたて、ほっかほか、コールスローサラダは、色どり良く噛みごたえがあり、パインゼリーは、甘酸っぱく、さっぱりとして、どれも美味しく、大満足でした。普段家庭だけでは味わうことのできない、貴重な体験ができた料理教室でした。(N)

今回は、料理教室ということでウキウキで参加しました。

班や参加者の方と協力して作る事ができました。

おいしいものを一緒に作り、お話をしながら食べることができて、とても楽しかったです。ありがとうございました。

群馬社会福祉専門学校 新井美可

ボウリング大会

12月15日(日) エメラルドボウル(前橋市国領町)を会場に開催しました。群馬県知的障害者生活サポート協会から支部活動助成を受けて行う行事で、今年で3回目になります。

今年はお本人、ご家族、支援者合計19名で実施しました。今年も笑いあり、歓声あり、ガッツポーズありのにぎやかで和やかな大会でしたが、陰ながら練習を重ねてきている方も増えているのか、年々レベルが上がってきているようにも思います。

ガーター無しのバーや、軌道を一定にする滑り台のようなアイテムを利用したりして、ご本人の特性やご希望にあわせて、どなたでも楽しめるように配慮してはいますが、そういったアイテムも上手に使いこなしながら、全体的に歓声上がる機会が増えてきて、一層楽しめるようになってきました。

また、他の行事に比べて、お父さんの参加率も高く、「昔取った、、」なのかベテランらしいきれいなフォームも披露していただいています。

いろいろなタイプのイベントを企画することで、出会える顔ぶれの層が広がる面があります。今後も皆さんの要望を聞かせていただきながら、無理のない範囲で、活動の幅を上げていければと思っております。

(前川)



「先進地見学」



11月29日（金）、前橋市育成会事務局の企画としては初めてとなる、障害福祉先進地の見学会を行いました。平日の朝～夕方までの企画ということもあり、参加者は11名と少なかったですが、皆さんかなり意欲的にご参加いただけていたように思います。

長野県中野市を中心にした「北信地域障がい福祉自立支援協議会」は、障害のあるご本人が、自ら興味あるサービスや必要とするサービスについて語り合い、見学や体験なども行う「ニーズ聴きたい・つなげたい」「いって来てやって委員会」などといった本人中心部会をはじめ、地域の課題にあわせた様々な部会を持ち、合計で年200回を超す活動を行っているという、超実践型の協議会です。

基幹相談支援センターが事務局となって運営されていることもあり、地域の相談支援の現場で挙がってくる課題がストレートに協議会に届けられ、必要に応じてワーキンググループを次々と組織して解決に向けた取り組みが行われている、まさに理想モデルの協議会です。人口8万人規模の地域で、当然財政的に恵まれているわけではないのに、なぜここまで積極的な取り組みが可能となっているのか、その秘密や課題について、現地のスタッフにお話しを直接聴かせていただくという思いで今回企画しました。

当日センターの所長さんより、この地域が目指す福祉の方向性と実践の概要をお話しいただき、支援拠点である「総合安心センターはるかぜ」の見学をさせていただきました。

正直に言って、こちらで得ていた情報以上に、障害福祉支援のネットワークは一層行き届いており、サービスも充実していました。またそれに携わる現場の皆さんが、この地域の「あんしん」を確保していこうという情熱を強く持ち、それを支える行政の理解も深いことを実感、「なぜここまでできるのか」とかえって謎が深まったようにも思います。

とはいえ、明確にモデルとなりうる実践が、この地域に現実として存在するということは大変心強く、今後行政や福祉事業者に働きかけ、お願いしていく上で、具体的な提案を行っていく際の根拠にもなるのではないかと感じました。

(前川)



参加者の感想

11月29日に前橋市手をつなぐ育成会様と一緒に、行きたいと思っていた北信領域の見学会に参加させていただき、その取り組みの素晴らしさに驚きと新たな課題をいただきました。

私は自立支援協議会の仕組みづくりが感動でした。その組織図を見たときに、まず本人のニーズを吸い上げて協議会の中に本人中心の部会があること、そうした協議会の部会の会議がほぼ毎日のように開かれて検討、課題収集されていることの素晴らしさ、本当に感動でした。

取り組まれて来た方々のつながり、そして地域まるごとの協力、支援体制が成した、正に理想となる北信圏域でした。

群馬でこれから何が出来るか?を真剣に考え、皆さんと歩む気構えをいただきました。

(群馬県手をつなぐ育成会 会長 江村恵子)

北信地域の障害福祉自立支援のしくみ、とぎれない支援の話をお聞かせいただき、行政、民間、医療、相支、Faなどのその方に関わる全ての機関の人たちとのモニタリングやっていた緊急時対応、緊急にならないためにご本人のニーズをしっかり拾い上げる大切さを改めて学ばせていただきました。

何人もの人が情報の共有をし、その方が本当に必要としている物の支援ができていたことがすごかったです。行政の協力や理解がしっかりしていることに驚きました。

11月29日、先進地見学会に参加させていただきました。以前から一度行ってみたいと思っていた長野北信地域と言う事で、とても楽しみにしていました。

ぱれっとの所長さんには、自立支援協議会等、地域の取り組みや行政との上手なつき合い方等、みじかい時間の中で、もりだくさんのお話しをお聞かせいただきました。

ショートステイの施設も、担当の職員さん方がしっかりした思いで運営されているなあと感じました。

やはり、一番は、意識が高いのと、行政も含めてきちんと連携・情報の共有の為に時間を作っているなあと思いました。

地域に持ち帰って、どの位活かせるかわかりませんが、見学に来られて本当に良かったと思いました。

ありがとうございました。(伊勢崎市会員)

長野県中野市にあります、北信圏障害者総合相談支援センターに伺い、自立支援協議会の活動や取り組みについて、研修いたしました。6市町村で協力して、途切れない相談支援の仕組みを構築し、6市町村に毎月出向いてサービスを使わない人に対しても介入のタイミングを図り、緊急度が高まる前に相談に乗る。手帳は持っていないが、ひきこもり等かくれている利用者にもあたたかい支援が行われています。群馬県でも、参考になる進歩的な事例でした。有意義な時間をありがとうございました。

(K・N)



手をつなぐ育成会 関東甲信越大会参加報告



『この子らを世の光に』今回の大会テーマとして、半世紀以上前に障害福祉の父と言われる糸賀一雄先生が提唱されたこの言葉が選ばれました。その理由は、津久井やまゆり園殺傷事件の被告が主張する「障害者は生産性が無く、社会にとって無意味で迷惑な存在」といった極めて歪んだ思想に対する明確な対抗軸として、糸賀先生の主張された全ての人が徹底的に保障されるべき「人としての尊厳」や「無限の可能性」を信じることを、我々家族や支援者があらためて見つめ直し、原点に帰って活動を推進して欲しい、との願いを込めてのことだと主催者挨拶の中で大会会長の村山氏は語られていました。

テーマを見て、随分懐かしい言葉が掲げられていることに多少驚いていましたが、あえてこのテーマを選定した理由を聞かされ、半世紀を経ても全く色あせない糸賀先生の言葉の迫力と、この輝きのある主張が関係団体の大会等で繰り返しアナウンスされてきたのにもかかわらず、実際の社会の中では全く浸透されていない現実の厳しさを感じました。

今回、前橋市育成会事務局からは、原澤会長と前川の2名が大会に参加しました。原澤会長は「権利擁護」をテーマに、やまゆり園事件のふりかえりと、その後も減らない虐待・差別をどう解消していけば良いのかを考える分科会に参加し、前川は「共生社会」をテーマに、又村あおい氏が講演と会場との質疑応答全てを行うというスタイルの分科会に参加、「共生社会」のそもそもの意味合いや、障害理解を進めていくということの意義、今後の展開を期待する上で関係者がなすべきこと等について学ぶ分科会でした。

いずれの分科会も非常に限定された時間の中で行われていたこともあり、新たな方向性を提案すると言うよりは、これまで積み重ねられて来た中での課題をふりかえり、今一度原点に立ち返って推進していくという、大会テーマに沿ったスタイルで構成されたのかと思いますが、自分自身の中で一番印象的であったのは、又村氏の講演の中で育成会の今後の方向性として、長年蓄積された育成会の様々なノウハウを地域に展開し、地域づくりの役割を積極的に担っていくという視点でした。

近年組織の高齢化や弱体化で、今後如何に維持していくかという内向きの視点に偏りがちだった育成会にとって、一つの転換点になりうる提言ではないかと感じています。特に近年全国各地で少しずつ拡がりを見せている啓発キャラバン隊（または推進隊等）は、知的障害への理解を拡げるために、地域の小学校や保育所、あるいは警察や消防署等いざという時に一番理解をして欲しい機関等にも出向いて、知的障害のある方が、地域であたたかく見守られる社会になるよう地道に活動をされている様子を紹介されていました。

様々な課題が山積している育成会活動と知的障害福祉ではありますが、その原点となる視点や方向性は、半世紀以上前に糸賀先生をはじめとした先駆者の皆さんが示してくださっていて、現在でも決して色あせたものにはなっていないと思います。

今一度原点を見つめ直し、その上で今何ができるかを考え、一つ一つ行動に移していく、そんな地道であたり前の活動の大切さを感じさせていただけただけの大会でありました。

(副会長・前川)

育成会 スタッフ募集

一緒に楽しくお話ししながら活動しませんか
随時募集しています

連絡先TEL/育成会携帯 080-7744-4300

編集後記

皆さん、体調はいかがですか。風邪・インフルエンザ・肺炎…手洗い、うがい、マスク予防していきましょう。

(Y、A)